

## 土づくりのひと手間で、美味しいアルプス米を生産！

～9月15日～11月15日は「秋の土づくり運動」期間です～

高品質で美味しい米づくりには土づくりが最も重要です。収穫を終えた土に、有機物の施用やケイ酸分の補給を行い、次年度の作付けに備えましょう。

### 1. 有機物の施用で地力を回復

稲わらのすき込み・堆肥施用・緑肥の作付けとすき込みによる有機物の施用は作物の生育に以下の効果があります。

- 1) 透水性・保水性・通気性が改善し根張りが良くなり、気象の変動に強くなる。
- 2) 腐植が増加し肥料分の持ちが良くなり、生育が良くなる。
- 3) 土壌中に良い微生物が増え、生育が良くなる。

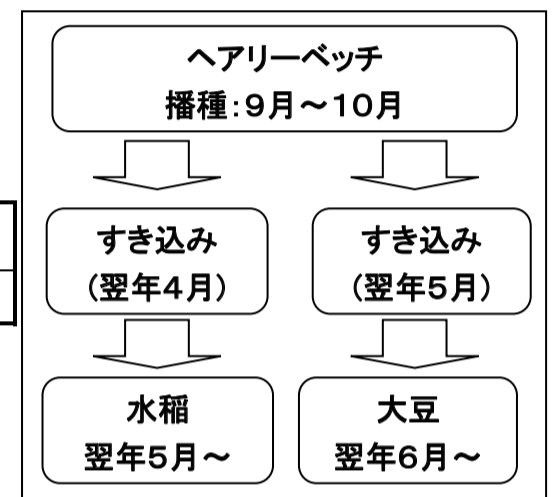
【堆肥等施用の目安(10a 当たり施用量) 秋施用】

牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	発酵鶏ふん	糶がら堆肥
1～2t	1～2t	100～150kg	1～2t

【緑肥作物の栽培(冬作物)】 ※緑肥作物の肥料は不要です。

作物名	播種時期	播種量
ヘアリーベッチ	水稻収穫後～10月中旬	3～4kg/10a
レンゲ	水稻収穫後～10月中旬	3～4kg/10a

【ヘアリーベッチの栽培体系】



翌年の大豆作付け前にヘアリーベッチを作付け、地力を高めましょう！

### 2. 土づくり資材の施用でケイ酸を補給

下表のいずれかの土づくり資材を継続して施用し、高品質な米の安定生産につなげましょう。

- 1) 稲はケイ酸を多く必要とします。途中で施用を中断すると、ケイ酸は急速に減少しますので、継続的に施用しましょう。
- 2) アルカリ分は土壌の酸性を矯正するため、養分吸収の向上やカドミウムの吸収抑制に有効です。

【土づくり資材の特徴と施用量の目安】

資材名	特徴	ケイ酸分(%)	アルカリ分(%)	10a 当たり施用量
粒状ケイカル	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる 倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す	30.0	44.0	200kg
元 気	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り	24.0	32.0	100kg
シリカロマン	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能	25.0	45.0	100kg
シンキョーライトP	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善	(66.1)	—	100kg



【土づくり資材の施用効果】

### 3. 秋耕しで稲わらをすき込む

秋耕しは地温の高い10月中に行い、稲わらや籾殻を腐熟させましょう。

焼却すると、窒素やケイ酸は失われてしまうので、焼かずに全量すき込みましょう。

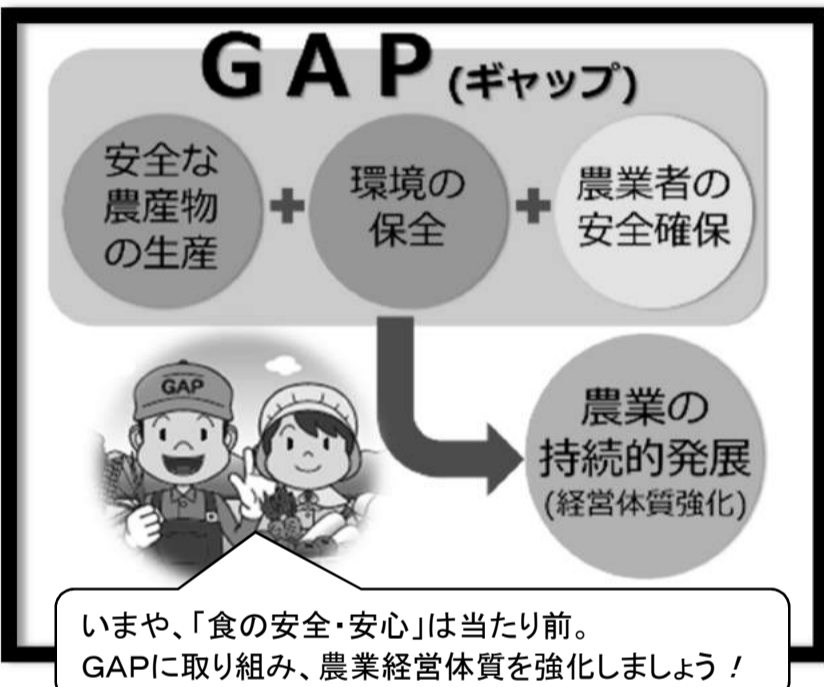
秋耕し後は、腐熟促進のため排水溝を設置して水尻にしっかり連結し、圃場の排水に努めましょう。

～農作業機械で道路を汚したら、必ず掃除しましょう～

# GAP(ギャップ)特集

詳細は平成29年JA夏期懇談会資料6～7ページをご参照下さい。

## ■気づかないうちに不適切な農業行為していませんか？



## ■GAP (Good Agricultural Practice) とは

直訳すると「良い農業の実践」となります。

「安全な農産物の生産」「環境に配慮した農業生産」「農業者の安全確保」を目標としています。GAPの取組による持続的な改善活動により、事故等の防止だけでなく、経営の効率化や消費者等からの信頼性向上など、農業経営の体質強化につながります。

JAアルプスでは、GAPの取組を確認するためのチェックシートを配布するなど、GAPを推進しています。

## ■GAPの取組手順

### ①自己点検(気付き)

「GAP チェックシート」を活用して、法律違反や事故等につながる問題点がないか確認しましょう。

### ②改善

自己点検で気づいた問題点について、改善に必要な取組や農場ルールを考え、関係者で情報を共有しましょう。

### ③実践

問題点を改善するための農場ルール等に基づき、適正な農業生産活動を実践しましょう。

以上の①～③を繰り返す継続的な改善活動がGAPの取組です。

### 改善事例1: 廃棄物の適正処理



分別されず、廃プラ等が散乱 (不適切処理のリスクあり)

廃プラ等分別・保管の徹底 (JA回収時等に適正処理)

### 改善事例2: 農薬の適正な保管・管理



【お知らせ】 JAアルプスでは、11月8日(水)に農業用廃プラスチック類・廃棄農薬の回収を行います。回収場所は、立山及び滑川配送センターです。詳しくは、『広報アルプス 10月号』でご確認ください。